



第477号 平成30年4月1日

発行所 京都市学校医会

京都市中京区間之町通竹屋町下ル

楠町601-1 こどもみらい館 2階

TEL (075) 256-0351

FAX (075) 241-3568

発行人 林 鐘 声

## 動ける医療的ケア児への学校対応

会 長 林 鐘 声

3月11日(日)、日本医師会館で開催された平成29年度学校保健講習会(日本医師会主催、日本学校保健会後援)に出席してきました。

文科省健康教育食育課からの中央情勢報告では、中教審のメンバーに横倉義武日医会長が参画したとの情報は目を引くものでしたが、その他にお伝えすべき新しい事はありませんでした。続いて2つの講演会、「学校医に求められること」と題するシンポジウムが行なわれています。その内容は例年通りであれば9月号の日本医師会雑誌に掲載されると思いますので、それを参照してください。

私からは、講演の1つであった「特別支援学校の実態～教育と医療的ケア」について報告します。在宅医療を幅広く展開している医療法人はるたか会：前田浩利理事長による発表でした。医療的ケアとは、医療職でない者が行う医療ケアを指し、在宅医療や特別支援教育の場で使われている用語です。気管切開、人工呼吸器、胃瘻、中心静脈カテーテル管理などの治療を受けている患者が対象です。

日本の新生児死亡率は年々低下していて、現在、日本が一番低い国です。2015年WHOの国際比較では新生児1,000人の死亡者は、世界平均で24人、米国9人、英国2.9人、ドイツ2.2人、日本0.9人となっています。医療的ケア児は平成17年から平成26年までの10年間で、9,403人から16,475人と約2倍に増え、在宅呼吸管理を受けている小児患者は264人から3,069人と約10倍に増えていて、24時間介助が必要で医療依存度の高い医療的ケア児は、この先、更に増えていくのは必至です。しかも、彼らは従来のイメージである寝たきりの子どもばかりではなく、その45%は動ける子どもであるのが現状です。動け

る医療的ケア児やその保護者にとってみれば、生命の安全、健康の維持とともに、遊び、外出、学びなどの社会生活の充実を求めるようになるのは当然のことです。

現在、全国で医療的ケアを受けている児童生徒は8,000人いるそうですが、解決すべき課題がいろいろとあるようです。課題の第1は、学校への送迎です。人工呼吸器の治療を受けていると、送迎バスには乗れず、公費で介助者をつける仕組みがないことから、仕方なく保護者が自家用車で送迎していることが多いようです。送迎は教育か福祉のどちらの領域に属するにしても、手当てのいる所です。第2は、学校内では学校看護師が配置されますが、親が学校に付き添いをしている医療的ケア児は全国で1,200人いるそうです。京都市の場合、平成28年7月の段階で、医療的ケアを必要とする児童生徒は56人、うち人工呼吸器管理が10人、気管切開管理が17人います。送迎バスが利用できない児童、生徒では自家用車あるいは介護タクシーを利用しているとの事でした。学校看護師は平成28年度で4つの総合支援学校に24人が配置されていて、保護者の付き添い例はないとの事でした。第3は、学校看護師を採用する教育委員会は医療的ケア児の実態、その看護と看護師の実情に詳しくないこと、学校という職場の中での学校看護師の孤立、更には、学校責任者は医療が専門でない校長であることから、過剰な防衛、適切でないケアを求めることがあるようです。

学校だけで医療的ケアを必要とする児童生徒の教育課題の解決は不可能であり、教育、医療、福祉の連携の仕組みを構築することを提起するものでした。

## 精神保健をともに担う — そのⅡ. 不登校への手立て (3)

顧問 有井悦子

### 5. 手立て

子どもと環境による個別性が手立てには大切です。ここでは、その基本をお示しします。中には、遊び呆けたり、暴君のように振舞う子どももいますが、心のうちは『しんどい』と想定して手立てをとると解けて来ます。

#### (2) 家庭で

家庭が安心でよい居場所になるよう努めます。よい居場所であっても、充分回復すると、その子の時機、方法で、社会の人間関係に入っていきます。ひとは、社会的存在なので、存在と能力の自信を培って成長するとそれが実現します。長いスパンでよい手立てをとり続ける心づもりが要りますが、成長する姿を見せてもらう喜びを親、先生方と享受できます。

親は子どものしんどさが判りにくい上に、親だからこそルールをはずれたような不登校に将来を心配し苦悩し焦ります。「学校は行くもの、勉強はするもの、苦しいことはのりこえるもの」という価値観の中で親は長く努力して生きて来ています。それを一時期でも横に置くのは、たやすくありません。社会の厳しさを伝え、社会の模範を教える役割を担う父親は、尚のこと切り換えが難しく苦慮します。祖父母は、長きに亘り、中には戦中戦後生き抜いて来た世代であり理解を得る苦労は諦めます。

理想の子ども像への親の期待も、今は傍らに置いてもらいます。子どもが、週刺に受けとり続けて来たからです。元気な時は目安となる常識、正論、躰(“ ”で示す)も180度転換した手立てを講じます。

#### 1) 環境を整える

- ①本人のホンネに任せ、必ず「ムリしんどきや」と念をおし、ゆっくり過ごさせる。
- ・洗面・歯みがき・身繕い—しんどいと出来ず、1日中パジャマですぐずす場合も。
  - ・入浴・洗髪—意外とハードルが高く、しんどさの目安になるので、任せる。

- ・髪を切る—理美容室にはとても行きにくいので、時期、行き先も任せる。
- ・片づけ、家事—家に居るので、出来そうでも、わかっているけど出来ない。ラクになると、ゴミ屋敷のような部屋も片付けるので、任せる。
- ・食事—“朝ごはんはちゃんと、三食バランスよく、間食・夜中の食事は避ける”はどれも出来ませんが、任せていると少しずつ元の食生活に戻ります。
- ・睡眠—“早寝早起き”はなかなか出来ないで苦慮します。何とかしなければと自分を追い込めば込むほど入眠困難が加速し、極まると昼夜逆転、浅眠、中途・早朝覚醒、夜篤に至ります。眠くなってから就床する方策が奏効します。
- ・外出—“少しずつ外へ、日に当たらないと不健康”は、家の敷居を跨ぐのはしんどいと難しくても、家の中でゆっくりすごすと外に出たくなります。
- ・友人とすごす—“友達と交わる、出来れば多い方がいい”は、しんどい時は友達に気を遣い、緊張し、とても疲れます。自分から会いたくなった時が好機なので、急がせない。
- ・運動—“運動しないと、体力がおちる”は、筋力は確におちますが、運動を強要しなければ、ラクになったら、自ら動きます。体力はさほどおちないのは周知の通りです。
- ・勉強—“苦しくても、コツコツ努力すると、達成感が得られる。どのような進路にでも進めるよう勉強していて損はない”よい状態の時は、自分を勉強に向かわせられますが、しんどい時は手につきません。やらなければと思えば思うほど苦しみます。今は横に置き、回復したら、自分に合った方法で馬力を上げて始めます。
- ・登校—“学校は行くもの”だから、少しでも別室でも「行く？どうする？」と聴くと期待に応え早尚なのに行き、更に経過を長びかせます。「ムリしんどきや」と付け加えると、回復状況に頂度合う時期、方法が図れます。

## ②たのしいことを

- ・メディア（ゲーム・DVD・TV・ネット・YouTube・スマホ）接触—依存が危惧されていますが、しんどい時はハマっても、ラクになると「面白くない、退屈や」と離れます。心からはたのしめてないけれど、苦しみから救われる時間なので、制限したり、とり上げたりすると確執が高まり危険なこともおこります。おおらかに任せて見守るのが得策です。
- ・その他—何でも、関心が向き、愉しめるものが、回復を助けます。ある程度の支出は必要ですが、費用がかかりすぎる場合は、相談して制限します。要求を止められず、後で自分を責める子どもを守ることになります。

## 2) 「大切に思っている」と伝える

子ども達は、「どうせ自分なんか」「この家に居いひん方がいいんや」「死んでしまいたい」と真剣に

吐露します。親は、大切に思っているのに本当の事が伝わっていません。又、生来、不安が高いため、なかなか伝わりにくい子ども達もとても多いと感じています。不登校は、それを、改めて伝えて子どものこころの土台を築く好機として活用すると心の育ちを磐石に出来ます。学校医やかかりつけ医は言葉にし、態度で表わし、“大切に思っている”と、親が伝えられる手助けができます。子どもは存在の自信（自己肯定感、基本的信頼感）を培い、社会に雄々しく出て行きます。特に子どもが、自分から話して来たら、助言したり、諫めたりしすぎず、「子どもは、そう思っている」として、ひたすら聴くことで、大切に思われていると子どもは実感できます。助言などは、“どうしても”というところだけ最後に少しするとよい関係が築けます。又、日々子どもと「相談する」策をとると、子どもは大切にされているという実感を積み重ねます。

---

## 第2回 次世代はぐぐみプロジェクト事業 思春期保健対策ネットワーク会議に参加して

川岡東小学校医 山内 英子

次世代はぐぐみプロジェクト事業とは、「思春期の中高生に対し、子育てに関する意識の啓発を行うと共に、社会全体で妊娠・出産・育児を支える一員としての意識を育む」ことを目的として平成28年度から始まりました。

事務局は京都市子ども若者はぐぐみ局子ども若者みらい部育成推進課。京都府の合計特殊出生率が全国で東京都の次に低いために、中高生対象に思春期健康教育を実施することを事業概要としています。参加関係機関は京都府医師会、京都産婦人科医会、京都市学校医会、京都府助産師会、京都市児童館学童連盟、京都府立医大医学部看護学科、学生ボランティア(看護学科の学生)。

中学校・高校からの依頼に基づき、「妊娠・出産・育児について」の講話、「赤ちゃん抱っこ体験」「妊婦体験」等の実技教育を行っています。講演を行っているのは京都産婦人科医会。京都府助産師会では「いのちふれ愛口座」として、小・中・高校生、保護者、一般向けに生と性、妊娠、出産、子育てについて出前講座(有料)を実施しています。

また、平成24年度から中学校技術家庭で「幼児とのふれあい体験」が必修化され、これをきっかけとして、学校での教科学習だけでなく、京都市児童館での「中高生と赤ちゃんとの交流事業」等に参加することで、乳幼児等とふれあう体験の回数を増やし、かつ体験の幅を広げ、命の大切さや子育てについて、より深く理解することができるように、関係団体とも連携し、学びの機会の拡大を目指そうとしています。

平成30年度以降の具体的な取組みについては、普及啓発物品の作成：人生ゲーム等のボードゲーム、カードゲーム。人生年表の作成。学生ボランティアの育成とともに、より年齢の近い学生ボランティアによるライフデザインについての講話を行うことが検討されました。

こんな中で、会議に参加して、京都市学校医会としてできることは何か…、考えさせられました。

未婚化・晩婚化、晩産化・少産化の進行を止められるような対策を、共に考えていくべき時を向かえているようです。

# 平成29年度 東山支部会報告

東山支部 橋 平 誠

2月25日、京都市学校医会東山支部会・東山医師会学校医会総会をホテル日航プリンセス京都にて開催いたしました。

当日は近医連学校医研究協議会総会が開催されており、会長の林先生には、大津から駆けつけて頂くことになり、大変申し訳ありませんでした。

今回は林会長他、11名の先生方のご参加を頂き「整形外科医から見た運動器検診の注意点」と題して、中嶋外科整形外科医院院長、中嶋毅先生（東山

泉小中学校校医）から、下肢機能、側彎症を中心に運動器検診での異常の評価方法、整形外科受診指示の要点などについて、多数の画像の提示を含めて講演を頂きました。

日頃、検診の現場で戸惑うことが多いためか、多数の質問、意見が提起され、時間を延長しての講演となりましたが、次回の検診から役立てていける実際的なお話であったと思います。

## 第11回 常任理事会

平成30年4月7日 於：事務局

**出席者** 林会長、井本副会長、東道・大久保・山内・安野・川勝・西村・中嶋各常任理事、佐野眼科学校医会副会長、鈴木耳鼻咽喉科専門医会理事、奥村議長、長村監事

### ・会長挨拶

### <報告事項>

1. 色覚相談 3/6, 3/13, 3/20 (各2名)
2. 精神衛生研究会 3/8
3. 平成29年度京都府医師会学校医部会総会 3/8 於：京都府医師会館
4. 平成29年度 日医学校保健講習会 3/11 於：日本医師会館
5. 左京支部会 3/18 於：高台寺 十牛庵
6. 京都市学校医会 新任校医研修会 3/22 於：こどもみらい館
7. 京都府医師会 新任学校医研修会 3/31 於：京都府医師会館
8. 京都市立義務教育学校の設置等について
9. 診療情報提供書について
10. その他

### <協議事項>

1. 京都市教育委員会 体育健康教育室からの議題について
  1. 京都市立高等学校定時制課程への産業医配置について
  2. 平成30年度京都市立学校結核対策委員会への委員推薦のお願い

3. 西院小学校への(総括)産業医新規配置のお願い

平成30年度から、教職員数が50名以上となるため、新たに産業医または総括産業医の先生を御推薦いただきたく存じます。

2. 平成30年度 京都市学校保健会役員選出について
3. 平成30年度 三師会・懇談会日程について
4. 京都市における学校での「エピペン」処方状況について
5. その他

### <関連学会・各種協議>

1. 色覚相談 4/10, 4/17, 4/24
2. 全理事会 4/12
3. 精神衛生研究会 4/12
4. 第67回京都市学校薬剤師会 懇親会 4/14 於：京都タワーホテル
5. 京都市学校医会 総会 4/21 於：木乃婦
6. 第1回常任理事会 5/12 14:00~
7. 西京支部会 5/12
8. その他

### ～京都市学校医会研修会のお知らせ～

日 時：平成30年6月30日 14時～15時30分

場 所：こどもみらい館 4階 研修室B

(中京区間之町通竹屋町下ル TEL 256-0351)

講 師：十一元三 先生

(京都大学大学院医学研究科  
人間健康科学系 教授)

演 題：「発達症と不登校」

校医ニュース5月号にて参加募集要項お知らせいたします